

滋賀県議会議員

まなぶ

Kunori Manabu Report

令和4年
春暖号
VOL.44

九里学レポート

くらしのご相談やご意見など FB(フェイスブック)日々更新中
ございましたらお気軽に <https://kunori-try.jp/>

くノり学事務所へ

TEL077-558-1809/FAX077-558-0665



(事務所・自宅)〒520-3001 滋賀県栗東市東坂409-3

(発行責任者/九里学・編集責任者/米津 進)

クリーンで身近なひらかれた県政のために



コロナ禍に負けず
世界の平和を
守るために

地道に!! 頑張ろう!!

九里学

※蠢動…春になると生物が動き出すこと。

「自由な経済」を理念に公正で透明な湖国滋賀づくりに蠢動します。

「地域の自立」「多様な思想」

政策の柱に据え活動してきました。

整備と自由で公正な経済を自らの

③社会的弱者のセーフティネット

②地域の個性や自立性を重視し、

①多様な立場をつなぎ、

持が問われています。私はこれまで

方政治に取り組む議員の信念や矜

持が問われています。私はこれまで

方政治に取り組む議員の信念や矜

持が問われています。私はこれまで

持が問われています。私はこれまで

持が問われています。私はこれまで

相手共行

(はしゆきようこう)

※「同じ志をもった人が、共に手を取り合っ
て前へ進んで行く」という意味の禅語)

コロナ禍や世界情勢が不穏な今、地



令和四年弥生吉日
滋賀県議会議員
滋賀県監査委員
九里学

【役職】・滋賀県監査委員 ・環境・農水常任委員会委員 ・滋賀県ラグビーフットボール協会副会長 ・滋賀県スポーツ振興議員連盟副代表
・栗東柔道スポーツ少年団育成会名誉会長 ・栗東市卓球協会会長 ・栗東市整備株式会社相談役 ・栗東音楽振興会[R.I.S.S.]会長 他

2月定例会議(2月21日登壇)九里学 三日月知事・市川健康医療福祉部長に質す

『新型コロナウイルス感染症について』-感染症・後遺症を経験した視点で-

Q…知事は医療現場や保健所に最近ではいつどこへ行かれましたか。
A…昨年6月14日に大津市民病院、10月21日に高島市民病院、5月14日に甲賀保健所、本年2月5日に草津保健所を訪問しました。
Q…現場の苦勞と患者の苦痛の認識は定例的に見に行くことが重要だと私は強く感じているが、医療従事者と県の専門チームとの情報交換はどの様にされ、また保健所との患者情報共有はどのようにしていますか。
A…情報交換は行なっていません。今後はかかりつけ医と療養者との情報共有や、患者に寄り添った健康観察や治療につなげていきます。
Q…県部局毎に『特命チーム』を創設しリスクコミュニケーション対策の具現化をする

べきだと考えるがどうか。
A…第6波の学校・保育所・高齢者関連施設の感染拡大を受け、施設毎に『支援チーム』を組織し、緊密な連携を取り、拡大防止に今後取り組みます。また、訪問看護ステーションの委託や保健所へのサポートナース配置、看護師による夜間の電話相談窓口の設置など体制整備に努めます。
Q…重症度分類、とりわけ『軽症』扱いの対策を県としてどうするのか。
A…第一波の呼吸器症状、血中酸素濃度分類作成のままで、未だ全国的運用がなされており、第六波患者像を正確に反映していません。基礎疾患憎悪や誤嚥性肺炎発症で『軽症』のまま重症化や亡くなる現状を踏まえ各患者毎に対応する必要性を感じています。
Q…医療従事者による『トリアージ判断』を

もっと重視すべきだと私は考えるがどうか。
A…発熱や接触状況、基礎疾患やBMIなどコントロールセンターで聴き取りし判断しています。医師・看護師が呼吸器症状に加え、一人一人の患者様に寄り添った柔軟な対応を今後はご指摘の通り心がけていきます。
Q…県は二月上旬以降、新規感染者がピークアウトするとされたが未だ高止まりの状況です。科学的根拠はあるのか。
A…県独自モデルで推計しており、ピークがずれ緩やかな減少のままです。平均的な予測だけでなく医学的判断を重視します。
Q…県は、感染防止と経済活動両立のため、感染症対策・事業者支援など提言されたがもっと県民に寄り添ったスピード感のある具体的な対策をすべきではないか。
A…クラスター多発により基本的な感染対

策の徹底要請と、売り上げが減少した事業者への支援金上乘せ給付。家庭内感染回避のための宿泊施設補助。更には「つなぎ資金」提供など県独自の支援を行います。
Q…三回目ワクチン接種の加速化に向けて、有効性や安全性の啓発、国へのワクチン供給の働きかけなどもっと具体的手法をすべきではないか。
A…診療所等への協力金支給やソーシャルワーカーへの優先枠設定、大規模摂取会場創設に加え、国にも積極的に働きかけを行い、追加接種の加速化を市町とともに実現していくよう努めます。(文章一部抜粋)
Q…九里質問 A…知事・部長答弁



県民に寄り添ったコロナ対策を知事へ訴える

九里学 1月~3月 レポート



栗東市制20周年記念令和4年出初式(1/9・さくら)



令和4年栗東市成人式で新成人に激励の挨拶をおくる(1/9・さくら)



住民監査請求や包括外部監査人に対し監査協議を行う(2月~3月:監査執行室)



県政150周年を記念して「滋賀県の誕生」について展覧会が県公文書館で開催中(~/5/26(木)迄)



令和4年度当初予算見直し会派別ヒアリングを行う(1月中旬)



監査委員として河川・道路・橋梁砂防工事を現場確認(1~3月)



環境・農水常任委員会で新年度予算を精査する(3/8~3/11)



朝の駅立ちと県政報告をつづけて15年を数える(年中)

九里学質問答弁 2/27(日) 朝日新聞/Yahooニュースに掲載



令和4年度 当初予算編成

あなたもわたしも「シガリズム※」 みんなでつくり「健康しが」

令和4年度当初予算の一般会計総額は、約6,440億円。過去最大規模となった前年度と比べると約230億円(3.4%)の減額、過去2番目の規模の予算編成となりました。

新型コロナ対策関連の予算としては、医療提供体制の充実・強化するための事業が増額となった一方で、中小企業振興資金貸付金は減額、また、通常分の予算としては、看護、介護、障害福祉などの現場で働く方々の収入の引上げ、CO₂ネットゼロ推進費、びわ湖ホール施設整備費等が増額となった一方で、国スポ障スポ大会関係施設整備は減額としています。

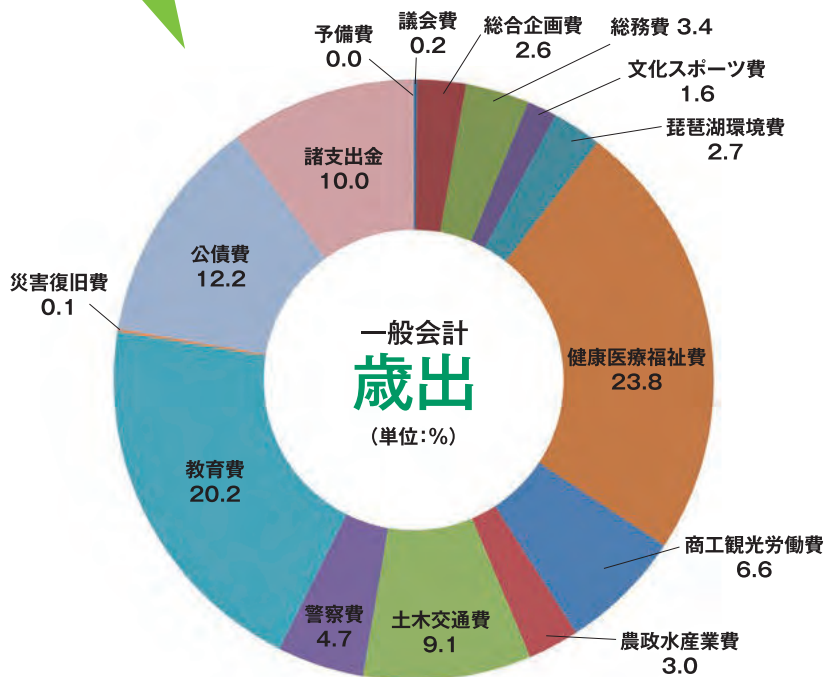
現在が大きな転換期にあるとの認識の下、基本構想に掲げる「未来へと幸せが続く滋賀」の実現に向けて「滋賀らしく歩んでいける一年」にしていきたい、という考えで予算が編成されました。

一方で、令和4年度当初予算案の段階での財源不足額は196億円となり、昨年度の当初予算の不足額と比較して76億円増加し、さらに厳しい財政状況となっています。

※シガリズムとは？

琵琶湖を真ん中に自然の四季を大切に味わい、みんな仲良く支えあって生きること、人間だけでなくすべての生きものを慈しむこと、今を生きる世代だけでなく、未来の世代のことを考えること。こういった滋賀のリズムに、三方良しなどの先人の教えに息づく滋賀のイズムを加えた意味を持つ。

一般会計予算 約6,440億円



令和4年度予算では、新型コロナウイルス感染症に関し、これまでの経験を活かして、滋賀らしく、より賢明に対応しつつ「子ども」を中心に据えて施策を展開し、その上で、「健康しが」(ひとの健康、社会の健康、自然の健康)の再構築を進めていきます。

また、これらを買くテーマとして「ひとづくり」を最も重視し、「DXの推進」「より良き自治の追求」にも力を入れていきます。

主な事業

■ 新型コロナウイルス感染症対策

医療提供体制の充実・確保	393億5730万円
学びの機会の確保	4億1780万円
経済・雇用・生活支援	304億410万円

■ ひとづくり

「令和の時代の滋賀の高専」設置事業	5790万円
滋賀の産業を担う人づくりの推進	8540万円

■ ひとの健康(子ども・次世代、こころの健康)

子どもが生まれる前からの切れ目のない子育て支援	1億9410万円
・リトルベビー等家族への支援・保育人材の確保・保育の質の向上	
困難を抱える子ども・若者への支援	2億7280万円
・新たな子ども家庭相談センター(児童相談所)の設置に着手	
・ヤングケアラーへの支援・ケアリーバーの継続的支援	
個別最適な学びの推進	2220万円
・子ども一人ひとりの学びの最適化・副籍(副次的な学籍)の制度化	
しがの魅力ある“公園”づくり	1億2900万円
・都市公園の民間活力導入・希望ヶ丘文化公園、びわ湖文化公園都市活性化	
自然・動物とのつながり	1300万円
・自然資源の保全活用・人と動物の豊かな関わり	
文化やスポーツを通じた元気づくり	14億5840万円
・「彦根城」世界遺産登録推進事業・新しいマラソン大会の開催	

■ 社会の健康(活力ある滋賀づくり)

コロナ禍を経た新たな時代に対応する滋賀らしいツーリズム「シガリズム」の推進	3億9920万円
・シガリズムのコンテンツの創出・PR等・ビワイチのブランドカアップの加速化	
地域公共交通の維持、強化	6億7800万円
・「滋賀交通ビジョン」見直しに向けた調査検討	
・地域特性に応じた交通ネットワーク構築事業	

■ 自然の健康(グリーン社会への挑戦)

CO ₂ ネットゼロ社会の実現に向けた挑戦	64億3280万円
・滋賀県CO ₂ ネットゼロ社会づくり推進基金の造成	
・資源の地域内循環による地域の活性化	
第72回全国植樹祭開催(6月5日(日))事業	5億2160万円
「やまの健康」推進プロジェクト	37億7800万円
・森林の適正管理・農山村の活性化・林業の成長産業化	

■ 「より良き自治」の追求、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進

図書館を生かしたまちづくり	1670万円
滋賀県DX推進支援事業	920万円

徳永久志衆議院議員、斎藤アレックス衆議院議員、田島一成元衆議院議員とチームしが県議団で意見交換

長引くコロナ禍やウクライナ侵攻に関連する原油高、物価高など、生活者の負担が大きくなる中、子どもの貧困への対応、トリガー条項の解除による地方自治体の税収減への対応、地域経済対策や、温暖化対策について意見交換しました。

